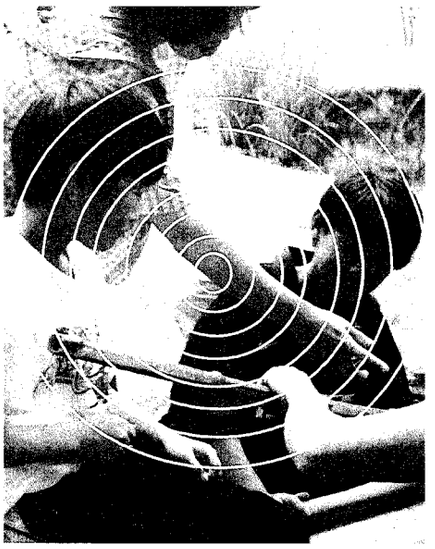

シリーズ3 市民委員会活動

市民委員会活動報告、三回目の今回は「青少年アウトドア活動研究委員会」を取りあげます。

活動趣旨

これからの青少年に求められる資質や能力は、「生きる力」(自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断したり、表現し、より良く問題を解決する能力であり、自ら律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心など豊かな人間性と、たくましく生きるための健康や体力)であるとしている。今こそ、学校、家庭、地域社会が「ゆとり」を回復して、「生きる力」を育むための諸条件を整備することが急がれている。

その一環として、市の施設を核として、ふるさとの自然(植物・動物・地質など)や歴史を探求する青少年活動の推進がのぞまれている。

このための指導手引書「青少年アウトドア活動指導手引き」を作成する必要がある。

研究の経過と内容

①資料による研究

―ガールスカウトから提供された資料【「自然とともに」はこんな考え方で】を中心に、自然を理解する―

宇宙の神秘、生命の神秘、人間と自然の調和、自然保護の理解

―野外活動の目的―

自然に対する畏敬の念、民主的な共同生活、自然を愛する心を育むことについて研究討議をおこなった。

②講師による研究

◆講師をお招きしての、講話から

―現在の青少年の現状と　その環境―

児童生徒の問題行動の現状、事例による問題行動の特徴の対比

◆学校・家庭・地域で健全な青少年の育成

―これからの青少年の在り方―

個の確立、責任感・連帯感・調和・感動・創造などの心の発達について研究討議をおこなった。

③委員からの基調提案による研究

◆青少年活動を通じて、今、大人は何を考えるべきか

◆ふるさと探険隊活動とわたしの少年時代

◆青少年育成市民会議を通して現代っ子を視る。

について研究討議をおこなった。

④作業委員会による研究

青少年アウトドア活動指導手引書を作成するため、作業委員会を設け、「ミュージアム都留と寺院」「高川山と尾県郷土資料館」「宝鉱山跡と都留いきものふれあいの里」の三コースを指導手引きとして作成した。

⑤講演会による研究

市民にも参加を呼びかけ横浜国立大学野垣義行教授により「青少年の育成と自然体験活動」をテーマとした講演会を開催し、青少年の理解、青少年の捉え方、社会的産物としての青少年・子どもの生活、世界がはらむ問題、人間的自立とは何か、人間はどのように成長・発達していくのかを研究討議した。

以上の研究討議からアウトドア活動手引き三コースと以下の提言がなされました。

●試案の三コースのほかに、ほかの施設を利用した区域の指導手引書を作成し、家庭・青少年団体・育成会などに配布し、積極的に自然体験が出来るような環境を醸成する必要がある。

●子どもクラブが実態のない組織となっている。子ども達による、子ども達のための活動が行われる子どもクラブの再構築と、その活動を支援する育成会の活性化に努力する必要がある。

●都留市が他に誇る自然を生かした、少年のアウトドア活動(自然体験活動)を推進する必要がある。

現代社会が抱える青少年問題は、大変深刻なものがあり、社会構造・自然環境の変化により、いろいろな体験が行われなくなったことによる影響ともいわれており、体験学習の重要性が指摘されて久しいものがあります。

この点でも今回の研究テーマは、青少年対策に一定の方向を示したものであり、今後、このアウトドア活動指導手引きの必要性は高まるものと考えています。

平成11年度市民委員会募集中

市では、市民委員会として活動する団体・グループを募集しています。市民の視点で考えるユニークでアイデアにとんだまちづくりに関する積極的な活動をお待ちしています。

問合先　政策形成課　政策担当